

## 熊本県委託医療機関における受検促進への取り組み状況

研究分担者：瀬戸山 博子 熊本大学生命科学研究部 消化器内科

**研究要旨：**熊本県全体および地区別（保健所管内）における自治体肝炎ウイルス検査数、陽性率の検討により、陽性率が高いにも関わらず人口当たりの検査数が少ない地域など課題が明らかになった。特に熊本県の人口の約4割を占める熊本市ではHBs抗原陽性率0.55%、HCV抗体陽性率0.47%と他地区と比較して陽性率が高いにも関わらず人口当たりの検査数が少ない。熊本市の自治体検査は全て委託医療機関で実施されていることから、同市での受検促進に向けて有効な介入手法を明らかにすることを目的として、熊本県内の委託医療機関別の受検者数と施設での取り組みの有無を調査した。回答を得た熊本県内の委託医療機関の約6割で年間1件以上の肝炎ウイルス検査が特定感染症事業を利用して行われていた。受検勧奨の方法別に勧奨実施と検査の有無との関連を解析したところ、口頭での受検勧奨が委託医療機関での検査実施に最も寄与すると考えられた。またそれを行う職種が医師であるかスタッフであるかは、検査の有無に関連しなかった。肝Coが在籍する施設では口頭での受検勧奨が実施される傾向にあった。委託医療機関での受検促進において医師あるいはスタッフによる口頭での受検勧奨が有効であり、肝Coの在籍はそれを促進する可能性を示唆した。

### A. 研究目的

ウイルス性肝炎は肝硬変や肝がんといった重篤な疾病への移行率が高い。その一方で病態が進行するまでは自覚症状に乏しく、自らの感染に気付きにくい背景がある。そのため多くの国民に対して肝炎ウイルス検査を行い、早期に感染の有無を確認することが重要となる。

わが国ではすべての国民が一生に一度は肝炎ウイルス検査を受けることを目標に、検査体制の整備・検査費用の助成・個別勧奨の実施が行われており、都道府県による肝炎ウイルス検査（特定感染症検査等事業）および市町村による肝炎ウイルス検診（健康増進事業）が無料あるいは一部自己負担で実施されている。2021年度の両事業による地方自治体でのB、C肝炎ウイルス検査受検者は約84万人であった。肝炎ウイルス検査の受検を促進するために各自治体では検査の周知や利便性を高めるための様々な取り組みが行われている。

熊本県全体および地区別（保健所管内）

における自治体肝炎ウイルス検査数、陽性率の調査結果より、陽性率が高いにも関わらず人口当たりの検査数が少ない地域など課題が明らかになるなど特定地域における受検、受診促進方法の開発の重要性が示唆された。今回我々は、自治体検査の全てが委託医療機関で行われており、陽性率が高いにも関わらず人口当たりの検査数が少ない熊本市での受検促進に向けて有効な介入手法を明らかにすることを目的として、熊本県内の委託医療機関別の受検者数と施設での取り組みの有無を調査した。

### B. 研究方法

熊本県内の全委託医療機関584施設に対してアンケート調査を行った。調査期間は2023年10月～2024年1月で、Google FormおよびFaxを用いて回答を得た。回答率は48.5%（283施設、未回答項目あり）であった。調査項目は肝炎ウイルス検査数、陽性率の推移および委託医療機関での受検勧奨の有無とし、回答は2022年度実績に基づく

ものとした（図 1）。要因の関連性に関する統計解析はカイ二乗検定、相関解析、Mann-Whitney 検定を用いて行った。

**調査項目（5項目）**

- ✓ 特定感染症事業を利用して肝炎ウイルス検査を**実施した患者数**（2022年度）
- ✓ 肝炎ウイルス検査についての啓発**ポスター掲示**の有無
- ✓ 肝炎ウイルス検査についての**リーフレット配布**の有無
- ✓ 肝炎ウイルス検査について**口頭での受検勧奨**の有無
- ✓ 口頭で勧奨する場合、**説明者の職種**（医師orスタッフ）
- ✓ 各施設に在籍する**肝Coの有無**

図 1: 熊本県委託医療機関調査項目

**C. 研究結果**

**1. 肝炎ウイルス検査数および受検勧奨状況（図 2）**

年間 1 件以上の肝炎ウイルス検査が特定感染症事業を利用して行われていた施設は 163 施設（58.8%）であった。そのうち年間検査数が 1-5 件は 94 施設と最も多く、21 件以上の検査を行った医療機関も 23 施設みられた。また全体で口頭、ポスター、リーフレットで受検鑑賞を行っていた医療機関はそれぞれ 39%、40%、25%であり、ポスターおよびリーフレットについては 14%、17%がその存在を知らなかった。

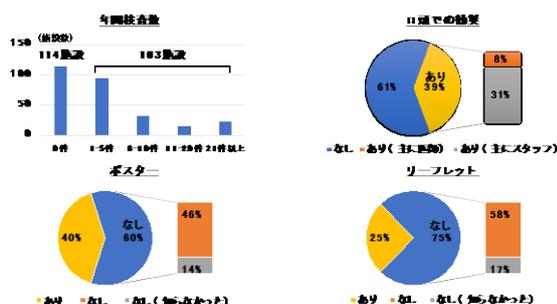
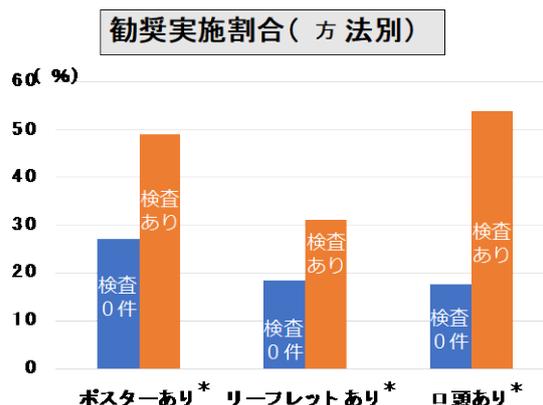


図 2: 肝炎ウイルス検査数および勧奨状況

**2. 勧奨方法が検査実施に与える影響（図 3）**

実施検査数が 0 件（検査 0）群と 1 件以上（検査あり）群のそれぞれで受検勧奨が行われていた割合を検討した。口頭の勧奨は検査 0 群で 17.5%、検査あり群 54.0%で実施されていた。ポスターはそれぞれ 27.2%、49.1%、リーフレットはそれぞれ 18.4%、31.3%であった（図 3）。



✓ **いずれの方法も検査の有無に関連\***  
 ✓ **“口頭での勧奨”が最も関連あり**

勧奨の有無と検査実施との関連性をカイ二乗検定、相関解析、Mann-Whitney検定で解析

図 3: 検査実施の有無別にみた勧奨状況

また口頭での勧奨が交絡因子となっている可能性を考慮し、口頭での勧奨の有無別に検査 0 群、検査あり群とポスター・リーフレットによる勧奨実施の関連を解析した（図 4）。口頭での勧奨があればポスターによる勧奨が検査の有無に関連していたが、口頭での勧奨がない場合はポスター、リーフレットによる勧奨は検査の有無との関連を認めなかった。

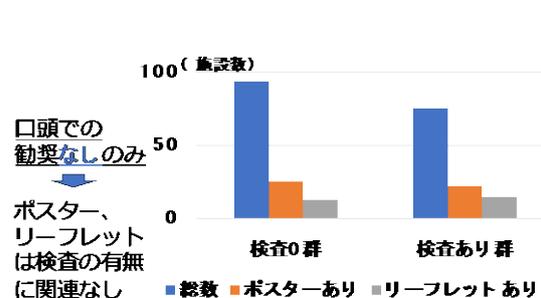


図 4: 検査実施の有無別にみた勧奨状況（口頭での勧奨あり、なしの場合）

### 3. 口頭での勧奨を行う職種が検査実施に与える影響 (図5)

口頭での勧奨を行っている職種が主に医師であるか、スタッフであるかが検査の有無に関連するかを検討した。主に医師による勧奨が行われていたのは検査0群で68.4%、検査あり群で80.6%であり、カイ二乗検定、相関解析、Mann-Whitney 検定による解析にて勧奨を行う職種は検査の有無と関連しなかった。また肝Co在籍が口頭での勧奨の有無と関連するかについても検討したところ、医療機関へ肝Co在籍していると口頭での勧奨が行われるという結果であった。

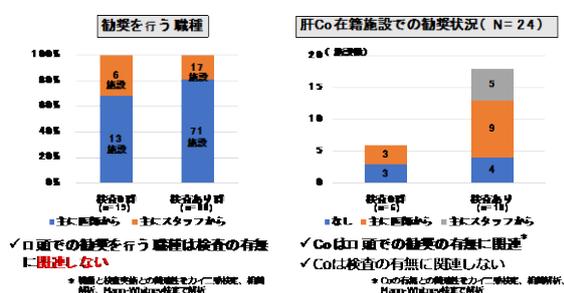


図5: 勧奨する職種が検査実施に与える影響

#### D. 考察

本調査では委託医療機関における特定感染症事業を利用した肝炎ウイルス検査の現状について検討した。委託医療機関の約60%で検査が実施されており、約40%で何らかの受検勧奨が行われていた。その一方で、自治体が作成している受検勧奨を目的としたポスター、リーフレットの存在を認知していない委託医療機関がそれぞれ14%、17%存在しており、啓発方法の周知の重要性が示唆された。

口頭、ポスター、リーフレットによる受検勧奨はそれぞれ肝炎ウイルス検査の有無と有意な関連を示したが、口頭での受診勧奨がない場合には他2つでの受検勧奨があっても検査の実施に特に関連性を認めなかった。このことから委託医療機関における受検促進に向けて、口頭での受検勧奨を進めることが重要であると考えられた。また、

その場合の勧奨を行う職種については医師、スタッフのいずれでも検査の有無に関係しないこと、および肝Coの在籍は口頭での勧奨に繋がることが示された。多くの委託医療機関はクリニックであり、勤務する医師数は一般的に1~数人と考えられる。委託医療機関での受検促進に向けて、勤務する職員における肝Co養成促進が望ましいと考えられる。

#### E. 結論

委託医療機関における自治体肝炎ウイルス検査受検促進に向けて、熊本県内の委託医療機関に対して肝炎ウイルス検査の状況を調査した。回答施設の約4割で何らかの受検勧奨がなされており、約6割で検査が実際に行われていた。受検勧奨の方法としては口頭での勧奨が特に有効と考えられ、肝Coの在籍がそれを促進することが示唆された。

#### F. 政策提言および実務活動

##### <政策提言>

なし

##### <研究活動に関連した実務活動>

研究班活動に加えて、熊本大学病院肝疾患センター副センター長として、熊本県健康福祉部健康危機管理課(肝炎・肝がん対策担当)と連携し、肝炎に関する総合的な施策の推進活動に携わっている。

#### G. 研究発表

##### 1. 発表論文

- 磯田広史、榎本大、高橋宏和、大野高嗣、井上泰輔、池上正、井出達也、徳本良雄、小川浩司、瀬戸山博子、内田義人、橋本まさみ、廣田健一、柿崎暁、立木佐知子、井上貴子、遠藤美月、島上哲朗、荒生祥尚、井上淳、末次淳、永田賢治、是永匡紹 肝疾患診療連携拠点病院における

肝炎医療コーディネーターの現状  
(第2報) 肝臓 64 巻 10 号  
Page510-513(2023. 10)

2. 瀬戸山 博子, 野村 真希, 矢田 ともみ, 吉丸 洋子, 檜原 哲史, 稲田 浩気, 田中 健太郎, 蔵野 宗太郎, 徳永 堯之, 飯尾 悦子, 長岡 克弥, 渡邊 丈久, 江口有 一郎, 田中 靖人, 肝炎医療コーディネーター活動継続における肝疾患診療連携拠点病院の役割, 肝臓 64 巻 11 号 Page583-586(2023. 11)
3. 廣田健一、井上貴子、小川浩司、荒生祥尚、遠藤美月、池上正、戸島洋貴、末次淳、柿崎暁、瀬戸山博子、榎本大、是永匡紹 肝炎ウイルス陽性者対策が急がれる非肝臓専門科は？ 肝臓 64 巻 11 号 Page587-589(2023. 11)
4. 井上泰輔、井出達也、内田義人、小川浩司、井上貴子、末次淳、池上正、瀬戸山博子、井上淳、柿崎暁、榎本大、立木佐知子、遠藤美月、永田賢治、是永匡紹 拠点病院以外の肝疾患専門医療機関における院内肝炎ウイルス陽性者対策調査 肝臓 64 巻 12 号 Page649-652 (2023. 12)

## 2. 学会発表

1. 肝疾患専門医療機関での肝炎ウイルス陽性者拾い上げ、肝がん・重度肝硬変医療費助成申請における多職種連携の在り方 瀬戸山博子、立山雅邦、田中靖人 肝臓 64 巻 Suppl.1 Page A225(2023. 04)
2. Nationwide survey of the impact of COVID-19 on the clinical practice and care of patients with liver disease in Japan. Setoyama H, Oza N, Shimakami T, Tanaka J, Tanaka Y, Kanto T Hepatology 2023;78 suppl. 1 S1716 (2023. 11)
3. 代謝異常にともなう脂肪肝に関する啓

発ツールと肝臓専門医受診システムとの連動によるハイリスク患者受診促進への取り組み 瀬戸山博子、渡邊丈久、吉丸洋子、長岡克弥、田中靖人 第122回日本消化器病学会九州支部例会プログラム・抄録集 Page90(2023. 11)

4. 新型コロナウイルス感染拡大が肝疾患コーディネーターの活動意欲に与えた影響 杉桜子、瀬戸山博子、畠山智美、怡土真理子、佐野美加子、松浦由沙、野村真希、吉丸洋子、田中靖人 第122回日本消化器病学会九州支部例会プログラム・抄録集 Page74 (2023. 11)
5. 薬局薬剤師の肝炎医療コーディネーターとしての役割 寺元栄一、瀬戸山博子、野村真希、吉丸洋子、田中靖人 第122回日本消化器病学会九州支部例会プログラム・抄録集 Page74(2023. 11)

## 3. その他

### 啓発資材

なし

### 啓発活動

1. 日本肝臓学会主催2023年度市民公開講座講師 (2023年7月30日)  
於：熊本県玉名市
2. 熊本県肝疾患コーディネーター研究会パネルディスカッション司会 (2023年9月17日) 於：熊本県熊本市
3. 相良村親子肝臓病教室講師 (2023年9月2日) 於：熊本県相良村
4. 熊本県医療従事者向け講習会講師 (2022年10月23日)  
於：熊本県水俣市
5. 鹿児島県肝炎医療コーディネーター養成講座講師 (2023年12月3日)  
於：鹿児島県鹿児島市
6. 奈良県肝炎医療コーディネーターフォローアップ研修会講師 (2023年12月5日) 於：奈良県橿原市
7. 熊本県協会けんぽ健診機関会議講師

(2024年2月20日)

於：熊本県熊本市

8. 熊本市小児生活習慣病予防検診説明  
会講師 (2024年3月23日)

於：熊本県熊本市

**H. 知的財産権の出願・登録状況**

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
なし